

なり海魚はいふに及ばず、鯉鮒鮎たくさんの所なり、昔時は此地に楮のなかりし所なりしに、吉川家の士何某といふ人、地の利をさぐり、百姓に楮の木を植させ紙をすく事をならわしむ、是よりして此邊の民家富饒となりし事也。略中 岩國の地川を帶、東西山つらなり、海近く、要害もつともよし。略中 岩國より西國海道へいづる道すじ、宇治の里といふ所あり、茶を以て名産とす、城州宇治の茶も此所よりなるべし、地名も同名にて茶を名産とするゆへあるべし。

〔和漢三才圖會七十九上關本名三十五里至安藝蒲郡海上二十里、略〕

〔海東諸國記〕周防州略中

義就 丁亥年元應仁遣使來賀觀音現像、書稱周防州上關太守鎌苺源義就、

正吉 戊子年二年應仁遣使來賀觀音現像、書稱周防州上關守屋藤原朝臣正吉、

〔九州道の記〕十一日五年天正晚田玄まを出て、其日は上の關と云所に船をかけて、明行空をもまたで、鹽にひかれて船出をもよほし行に。略下

〔鹿苑院殿嚴島詣記〕十三日年三月この國府周の國府の南たかはまといふ浦はたのみたじり

といふ松原に御旅所をたてたり、此松原はいそのかみ嚴島の明神こゝにあまくだりまして、今のいつくしまにはうつらせ給ければ、げにぞ神さびたるや、銀をしけるやうなるいさご、西東のすさきの中を入江のやうに二すぢばかりしほさし入て、浦松のいたくこたか、らで、枝ざし老かがまりて、木だちつくろへるやうなるむらくおひて、其中にちいさき社のふりたるぞおはします。略下

〔陰德太平記〕將軍赴西國給事

多々良ノ浦ニ漕入レバ、名モムツマシキ都濱ニ著給テ、略中 頓テ所ノ者ヲ召レ、爰ハイヅクトカ

云ト尋サセ給ヘバ、サン候俗傳ニハ三田尻ト申候、鞠府ノ浦ト申モ一説ニハ此地ヲ申候。略下